

## (4) 極小未熟児の early intervention 経過報告

研究協力者 宮尾 益知  
共同研究者 森 優子 本間 洋子 福田 恵美子  
美濃 厚子 大塚 崇江 斉藤 山美子  
中谷 陽子

### 1. 自治巣立ちの会

#### 1. 日時と予定及び場所

- ①自治医大小児リハビリ室
- ②第一回 平成5年5月27日よりはじめ、現在第9回、2年間の予定。
- ③毎月一回第4木曜日(午前10時-11時)

#### 2. 対象

1歳、2歳代の周産期に問題があったり、その後の発達でも不安のある症例で大きな問題のない極小未熟児を交代に行う。

#### 3. 人数

7-20名

#### 4. 会のプログラム及び運営方法:

- ①費用: 簡単なリハビリ(約135点: 親の負担 1回405円)
- ②各自にB6版のノートを書き加える。参加時に名札をつけて、シールを貼り後でコメントを書き加える。入室時にノートに参加シールを張る。保母さんにより、びよびよ通信を毎回発行し、郵便で送っている。
- ③挨拶→課題遊び(集まって歌、体を使った遊び)→自由遊び→課題遊び(集まって遊びと本読み)の順にプログラムを組み立てる。
- ④自由遊びを行っているときに母親に集まってもらい、話し合いと10-15分のミニレクチャーを行う。11月は医師、12月は言語療法士、1月は作業療法士、2月は看護婦が担当する。以後この順に担当する。終了後原稿用紙3-4枚にまとめて後で配布する。

#### 5. 評価方法

経過を追って発達テストを行う。(新版K式、MMCベビーテスト)

#### 6. 参加スタッフ

- ①小児科医師1-2名
- ②未熟児室看護婦1名
- ③保母1名
- ④作業療法士6名
- ⑤言語療法士1名

#### 7. 問題点

- ①子どもからの働きかけが少なく、母親からの働きかけも少ない。
- ②子どもの出すサインに対して適切に反応していない。
- ③発語が少ない。3.愛着行動が稀薄で、人見知りあまりしない。

#### 8. 巣立ちの会を行ってよくなったこと。

- ①母親と子どもの遊びが多様化してきた。
- ②母親が話しかけをしながら遊ぶようになった。
- ③発語が増えてきた。
- ④子どもの落ちつきがでてきた。
- ⑤母親同士の連帯感がでてきた。

### II. 小山巣立ちの会

#### 1. 日時と予定及び場所

- ①第一回平成5年9月24日、現在第5回、2年間の予定
- ②毎月第4金曜日午後2時40分から4時まで
- ③小山市白鷗女子短期大学おもちゃライブラリー

#### 2. 対象

年齢2歳前後の小山近郊在住の発達に大きな問題のない、極小未熟児及び未熟児、健常児

#### 3. 人数

3-10名

#### 4. 会のプログラム及び運営方法

- ①参加費用なし。
- ②来館時、名札をつける。
- ③おもちゃの配置は、毎回テーマを決め、そのときにレイアウトを行う。たとえば、触覚に関係したおもちゃ、音のでるおもちゃなど。
- ④挨拶→自由遊び(雰囲気慣れる)→3時のおやつ(みんなで

椅子に腰掛けて食べる。こどものみ: 飲み物とおかし)→課題遊び(家でもできる簡単な体を動かす遊び。感覚遊びを母とともにする)→自由遊び(各々、おもちゃを選ばせ、遊ばせる。)→最後に指遊びと本を読む→挨拶

#### 5. 評価方法

- ①発達テスト(新版K式)
- ②記録方法: 実施記録(参加者、年齢、付き添い、テーマ、評価)と個人記録(どんなおもちゃでどのように遊んだか、遊びの持続時間、言葉など)以上の参考になるように、ビデオ、写真記録を残す。

#### 6. 参加スタッフ

- ①小児科医師1名
- ②保母1名
- ③ライブラリー館長(心理専門家)1名、職員1名
- ④短大保育科学生3-6名

#### 7. 問題点

- ①参加者が少ない。立地条件(大学の中の施設であり、奥まっている。宣伝の不足)、対象を限定したため。
- ②おもちゃ主体で遊びを行ってきたため、体を動かすあるいは、母親と一体感を持って遊べるなどの遊びが不足していた。
- ③その他: 愛着行動、他動、発語が少ないなど。

#### 8. 巣立ちの会を行ってよくなったこと。

- ①以前と比較して、子どもの遊びが、多様化してきたこと。
- ②どのようにおもちゃを使えばよいのかあるいはどのようなおもちゃを与えればよいかが母親に理解されてきた。
- ③母親同士の連帯感がでてきた。

## アンケート結果 自治医大小児科 森優子

アンケートの対象は自治医大と小山巣立ちの会に参加されている児の母親で、16名(2組双胎を含む)より回答を得た。

調査時平均月齢 19.3ヵ月(13~28ヵ月)

対象の在胎週数 29.5週(25~38週)

性別 男9名、女子7名

出生順位 第1子65%、第2子29%、第3子6%

入院中の気持ち 不安だった81%、面会に行くのが楽しみだった56%、安心して任せていた50%、早く退院してほしかった38%、面会にいくのが苦痛だった6%

不安の解消方法 医師に相談84%、夫に相談53%、本を読んで情報を得た38%、自分の親に相談38%、その他23%

不安解消の有無 解消した69%、解消しなかった8%、どちらでもない31%

育児の主体 母75%、祖母13%、父と母と保育所6%

育児の中での関心事 健康94%、言葉の発達69%、情緒の発達56%、知能面の発達50%、遊び方、遊ばせ方50%、食事31%、運動面の発達25%、親子関係25%、おもちゃの選び方13%、絵本の選び方13%

育児の中で楽しいこと 会話をする69%、散歩に行く50%、一緒にお風呂に入る50%、家でおもちゃで遊ぶ44%、公園などで遊ぶ44%、歌を歌う31%、旅行する13%、食事をする6%、その他19%

育児の中での難しいこと 健康管理75%、しつけ63%、食事38%、遊ばせ方19%、親子関係6%

巣立ちの会への期待すること 子供の発達程度を知る81%、仲間作り44%、育児についての相談38%、子供の知能面を伸ばす31%、子供の遊び方を学ぶ31%、子供の運動面をのばす19%

巣立ちの会への希望 このままより44%、内容を充実させて欲しい31%、回数をもやす25%、時間を長くする13%

参加希望 希望する75%、どちらでもない19%

↓ **検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用 ↓  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

(4) 極小未熟児の early intervention 経過報告